

今より若い日はない！西洋野菜で姉妹就農

新規参入 就農2年目



カ石悠子さん（妹）、カ石知子さん（姉）

自己紹介

- 氏名…カ石 知子さん（32歳）
カ石 悠子さん（26歳）
- 出身地…青森県十和田市
- 経営の概要…個人経営
 - ・経営面積…（姉）50a（妹）1.5ha
（※うち、ビニールハウスは2a）
 - ・作付品目…（姉）西洋野菜、赤カブ
（妹）西洋野菜、カボチャ、にんにく
 - ・販売先…道の駅とわだ「とわだびあ」、
ファーマーズマルシェひとつぶ、
365STANDARD CAFE等

就農してからの課題や想い

○取り組み

西洋野菜を作り続けて20年を誇る「ふじもり農園（十和田市）」での研修がきっかけで、姉妹ともに西洋野菜をメインに栽培しています。

西洋野菜は大型の農業機械を要しないので経費が抑えられ、始めやすい品目でした。また、ふじもり農園から栽培に関するサポートや販路の紹介があったことも後押しとなりました。

○就農してからの課題

昨年は、カボチャとにんにくが予定した程には収穫できませんでした。しばらく耕作していない水田に植付けたため土壌環境が悪く、加えて天候不順だったことが重なったことが要因だと考えられます。

また、西洋野菜の種子は、種苗店に問い合わせても取り扱いがない事が多いので、種子の入手方法を安定させることが課題です。

○課題の解決方法

今年はかぼちゃにワラを敷き、地面に苗を固定させることで、雨風に強くし、食害やカビを防ぐ工夫をします。

種子の入手については、研修先から教えていただいたり、西洋野菜を扱っている種苗店を尋ねたりして購入しています。

就農のきっかけ

（妹）23歳のとき、働き方を自己裁量でデザインできる農業に挑戦してみたいと思いました。「先ずは5年頑張っ、失敗しても20代ならまだやり直せる！」と考え、姉に「私、農業を始める！」と宣言したのが始まりです。

（姉）妹から就農宣言を受けた当時、私は30歳という節目の年でした。幼い頃から父の農作業姿を見ており、農業は身近なものでもあったので、一緒に農業を始めてみようかと決断し、お互いの気持ちを確認した上で就農に挑戦しました。

○就農にあたっての課題

親は米農家なので野菜栽培に必要な機械や土地がありませんでした。土地は親の知り合いから借り、機械は融資で購入しました。西洋野菜の栽培に必要な園芸施設（ビニールハウス）は、「新規就農者農業機械等導入支援事業」を受け、新設しました。

○活用した就農支援策等

- ・農業次世代人材投資資金（準備型）姉妹で活用
- ・農業次世代人材投資資金（開始型）妹のみ活用
- ・新規就農者農業機械等導入支援事業（十和田市単独事業）

就農を考えている方へのメッセージ

就農する前、周りの方から「農業は難しい」と言われましたが、あまり難しく考えず、諦めず、先ずは挑戦してみることが大事だと思います。そのためには、何年か先の目標を立て、達成の為に何をすべきなのかを見える化することと、アドバイスやサポートをしてくれる師匠を見つけることが大切だと思います。



【パースニップ】

力強い白い根はニンジンに似た香気があり、とても甘いのが特徴。



【タルティーボ】

トレビスやチコリの仲間。あえて栽培が難しく手間が掛かる品目に挑戦！